編集後記

大腸癌の発育に関しては1960年頃から *de novo* cancer説と腺腫癌化説(adenoma-carcinoma sequence)の論争が繰り広げられてきた．しかしいまだに *de novo* cancerの定義は，明確ではない．大内論文では，腺腫併存のない癌は含まれるが，腺腫由来癌も発育速度により含まれていることは否定しえないとし，二宮論文では「*de novo* cancer＝陥凹型癌」は絶対ではないが暫定的に認知するとしている．この点は皆の共通した認識である．そして病理組織学的問題も避けて通れない．河内論文では免疫染色も加味した詳細な検討で，*de novo* cancerと考えられる陥凹型癌/陥凹型腺腫と腺腫を伴う癌の特徴を画像も含めて提示したことは本特集の大きい収穫であった．病理医間の差異が縮まる希望がもてる．*De novo* cancerの発見に関して，藤井論文では非拡大観察における色素撒布とNBIでのO-ring signの重要性を説き，三澤論文ではAIに期待と課題を提示した．質的診断に関しては，二宮論文では拡大内視鏡診断能は良好で，三澤論文ではAI診断能も期待できるとした．悪性度に関しては二宮論文，南出論文，河内論文とも，小さくとも担癌率・SM浸潤率が高く，リンパ節転移率も高い傾向，浸潤スピードも速く，悪性度が高いことを改めて指摘した．海外の状況では，堀田論文は前出の病理診断基準の隔たりが根底にあるため科学的根拠を突きつける必要性を説いたことは同感である．関連症例として今井論文，工藤論文，山田論文が提示されたがいずれも秀逸であり，必読の価値があった．

さて「ここまで来た *de novo* cancer」であるが，*de novo* cancerの存在は誰しもが疑わないし，感覚的にも理解できるものの，その実態を十分に摑んでいない．そしてわれわれキャラバン(内視鏡医，病理医，遺伝子研究者)の道は，真理を求めてさらに続くのであろうと考える．

山野　泰穂
(札幌医科大学医学部消化器内科学講座)

INTESTINE
Vol.24　No.1

©2020年4月20日発行
定価(本体3,200円＋税)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい．ただし，年間購読料は年度により異なりますので，書店または弊社までお問い合わせ下さい．

・Published by Nihon Medical Center, Inc.
© 2020, Printed in Japan
・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します．
・JCOPY〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き，禁じられています．複製される場合は，そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088，FAX 03-5244-5089，e-mail：info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください．

編　集　『INTESTINE』編集委員会
発行人　増永　和也
発行所　株式会社　日本メディカルセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64(協和ビル)
営業直通電話(03)3291-3901㈹ FAX(03)3291-3904
e-mail　info@nmckk.co.jp
編集直通電話(03)3291-3971㈹ FAX(03)3291-3377
e-mail　intestine@nmckk.co.jp
印刷所　シナノ印刷株式会社

広告申込所／株式会社　文栄社　〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1　電話(03)3814-8541

2026/09/13 01:53:48